

人づくり まちづくり 情報誌

# あくていぶ

No.

70

令和元年(2019)  
9月15日号



わがまちたかつき  
切り絵紀行

「京大農場跡(安満遺跡公園)」

切り絵 作：生地 高芳(高槻市在住)

あちこち訪問

奈良で歴史と生活文化と人権にふれる

「あくていぶ」は行動的、活動的な心と心のふれあいを求めて名づけられました

# 奈良県立 同和問題関係史料センター

奈良市大安寺 1-23-1 TEL.0742-64-1488

令和元（2019）年7月3日（水）あちこち訪問で、奈良県立同和問題関係史料センターと奈良市北郊を訪れました。

1980年代以降、これまでの被差別部落の歴史に、根本的な見直しを迫るような内容をもつ史料が県内各地で発見されました。この史料の調査・収集・整理・保存・研究を行い、同和問題の解決に資することを目的に、奈良県教育委員会内の教育研究機関として平成5（1993）年12月に同センターがオープンしました。

同センターは、開所以来25周年を超え、この間に10万点を超える史料の収集、調査・研究を行い、その成果は、種々の刊行物や常設展示、講座などを通じて情

報を公開されています。

常設展示では、被差別部落を含むさまざまな被差別民衆と周辺地域社会の関係や、差別の諸相、差別撤廃の取り組みの展開などがわかりやすく展示されています。

同センターの見学後、奈良市北郊のフィールドワークに出かけました（身分や差別に関わる表記がありますが、史料の名称や用語をそのまま使用しています）。



## 奈良県立同和問題関係史料センターを訪ねて

古い史料でしたが、わかりやすくパネルにされていて、視覚に訴えられる展示でした。想像ではなく、部落問題を科学的にとらえ、史料に基づいて示された「差別は政治的支配から生まれたのではなく、周りと同様に土地や水利権を持ちながら、神事に携わる固有の特権がある異質な集団に対して、それを避けたり排除しようとする意識が差別につながった」という説明に納得し、今までの思い込みの怖さを感じました。ともすれば「異質」を避けるという意識が今もまだ残っているのではないだろうか。

パンフレットに、『差別のない人権が確立されて、開かれた地域社会を築いていくために、個人としてできることは……一人ひとりがさまざまな人権問題を正しく理解し、確かな人権感覚を身につける。住民同士でできることは……多様な価値観や個性を尊重し、お互いに協力する』と記されていました。

希薄になった地域社会で、一人ひとりがつながっていくよう、この言葉を大切に、まず自分自身から！



史料を見ながらの質問攻めにも丁寧にお答えいただきました

## 奈良市北郊 フィールドワーク 感想

日だった。

ナビゲーターがかみくだいて説明してくださっているのに、初めて耳にする言葉や、難解な事柄についていけなかった私。身体全体が「ダンボの耳」のようになった感じでした。

「異なった存在」として、寺院を通じて独自の役割を持って生活して来た旧同和地区の人々の教育水準が高かったという点。学ぶ姿勢の中から、部落差別撤廃に取り組む人材が育ち、後の「全国水平社」の結成へとつながったこと。ほんとは少しづつしか理解できないけれど、今こうして学べるのがこの上なく嬉しい。人権に対して、まっすぐでゆるぎない奈良のスタッフが、休憩時、私の小学生並みのクイズに、笑いで反応してくださり、古都のイメージしかなかった（失礼）奈良が特別な地となりました。（きつと来ます、又…）

● 前世に悪事を働いたとか間違った情報によって、差別に耐え忍び、息をひそめて暮らしてきたハンセン病者の収容施設「北山十八間戸」。京へと続くにぎやかであったらう街道沿いに整然と並んだ十八の戸が、せつなさをより強調させる。先日ハンセン病家族の訴訟に対して、国の責任をほぼ認める裁判の判決を新聞で読んだ。生まれ育った地域から排除され、厳しい差別を受け、周りとの絆を引き裂かれ、自由を失い、そして家族にまで向けられた差別や偏見。この日をどんなに待ち焦がれていたことか。

過去のハンセン病患者の中には、旧同和地区出身者であり、障がい者であり、かつ高齢者であったり、三重、四重の苦しみを抱えた方もいたのでは…。余りの辛苦に心が痛み、身のつまされるような思いを感じた訪問だった。

● 北山十八間戸（きたやまじゅうはちまげんこ）般若寺は、古く鎌倉時代から、僧侶や身分のある人たちが社会事業として貧困や病気をしている弱者を救済している地域が存在し、自治が成り立ち、社会生活の中から芸能や工芸細工が生まれ、現在も脈々と受け継がれているという。奈良の歴史の奥深さを学んだ一日だった。

# 奈良市北郊フィールドワークに出かけよう!

きたまちエリアは、現在の近鉄奈良駅より北に広がる一帯を指す名称で、歴史は、ならまちエリアと同様に非常に古い時代にさかのぼります。

特徴としては、般若寺や聖武天皇・光明皇后陵など静かで奥行きのある場所があることや、奈良少年刑務所跡(旧奈良監獄)・奈良女子大学記念館など、ならまちエリアでは見られない近代建築・レトロ感あふれる空間が多く、様々な時代の雰囲気を味わうことが出来る地域です。

今回はこの地で生まれ育った生活や伝承についてとどき、その周辺に暮らした被差別民衆と地域社会の関係について考えました。



## 訪れたコース(徒歩で約3時間)

①奈良女子大学 → ②佐保山御陵 → ③北山十八間戸 → ④植村牧場 → ⑤般若寺

### Start ①奈良女子大学

奈良奉行所跡地。江戸時代の町政の中心地で、旧同和地区から毎日一人が「掃除役」としてつとめていました。「エタ溜り」という表記の地図が残されています。今はレトロで華やかな雰囲気で、当時の面影はみられませんでした。

今回説明いただいた  
奈良県同和問題関係  
史料センター 奥本所長



ていません。ハンセン病の患者以外にも重度の皮膚病患者など、長い歴史の中で約2万人もの患者が収容され、中世において、その施設管理や患者の世話は近くの「非人宿」がおこなっていたようです。

### ④ちょっとひととき…植村牧場

植村牧場は機械化が進む中、手作業で真心をこめて製品にされています。障がい者雇用にも積極的で、飼育や配達、調理に汗を流されています。

街で一番古いという牧場は、広さ約1800坪。牛舎には30頭余りの乳牛、羊、ヤギが飼育されています。敷地内にレストラン、売店があり、新鮮な生乳を使ったソフトクリームは美味!でした。



京都・大阪から足を運ぶファンも多い

### ②佐保山御陵

二つの陵墓は、正面に大仏建立の詔を出した聖武天皇(佐保山東陵)で、寄り添うように隣にある陵墓が、病人の救護等を行い、社会福祉の創始者とも言われる光明皇后の陵墓(佐保山南陵)。光明皇后は貧しい人を救うための施設である「悲田院」や医療を施す「施薬院」などを設置し、諸国から献上された薬草を無料で施し、自ら病人を看護したともいわれています。

### ③北山十八間戸

鎌倉時代に建てられた東西に細長い棟割長屋で、病室が18戸に区切られた、現存最古の救ハンセン病施設跡で慈善事業の遺跡として史跡に指定されている(現在の建物は江戸時代に再建され、明治初年まで使用されていた)。誰がいつ頃、何を目的に創建したのか、現在大別して二説あり、一つ目は、光明皇后が様々に行った貧窮者の病人救済事業の一環として建立された。二つ目は、僧・忍性が仏の教えにもとづいた社会福祉活動の場として創建されたというもので、忍性の説が広く流布していますが、まだ確固たる史料が見つか



国指定史跡 北山十八間戸

### Goal ⑤般若寺

京街道に面した楼門(国宝)、秋はコスモスで有名な般若寺は、鎌倉時代、金堂本尊に文殊菩薩がまつられ信仰の中心になりました。經典には『文殊というのは、姿を変えてその信仰者の前に現れます。その姿は「貧窮(ひんきゅう)」「孤独」「苦悩」。こういう姿となって現れるので、そういう人を見たならば文殊の化身と思ひ供養しなさい』とかかれており、西大寺を再建したことで有名な僧・叡尊は、菩薩の教えである利他(りた・自己を高め他のためにはたらく)の行を実践し、般若寺に数千人の病者や貧者を集め、弟子の僧・忍性たちと救済活動されました。その活動は我が国の福祉の先駆として歴史に名高いものです。



終点 史跡般若寺門

2019年 第34回

# 高槻市平和展

～つながる平和への思い～



令和元年8月8日(木)～9日(金)の2日間にわたり、市生涯学習センターで第34回高槻市平和展～つながる平和への思い～を開催しました。

## ☆特別展示「食がみちびく笑顔と平和」

考えよう、食べられるということ…

あなたは今日、何を食べましたか？ まだ何も食べてなくてお腹をすかせていませんか？ お腹一杯食べることができない人が世界で9人に1人いると言われ、その原因のひとつに紛争があるといわれています。その一方で食べ物が余り、破棄されるニュースを耳にします。そう遠い国の話ではなく、私たちの身近なところにもある問題です。どうすれば、みんなは平等に食べられるのでしょうか…？



世界の飢餓の現状や背景から戦争のない平和な世界をめざし、私たち一人ひとりは何ができるのかを考え、そして食卓を囲む家族や友だちとのつながる笑顔をテーマに、2日間にわたり特別展示「食がみちびく笑顔と平和」を開催しました。また戦後のこどもたちを飢えから救い、健全な育成を後押しした学校給食と、高槻市の学校給食の取り組みについても紹介しました。

### 高槻市の給食は…



食品添加物を極力避け、旬の食材を使う安全でおいしい給食です。給食を通じて日本の食文化を知る献立を取り入れる工夫がされています(行事食や郷土食)。また地産地消の取り組みで、高槻産「ひのひかり」米を小中学校で100パーセント使用しています。

会場に高槻市で以前使用されたアルマイト製の食器と、平成13(2001)年から使用しているより安全な陶磁器を展示しました(写真)。訪れた小学生の保護者は「給食が懐かしいですね。食器のことは初めて知りました。」と器を手に取り、こどもと話し合っていました。

- 参加者から
- ・食と平和との関係についての視点がなかったので、新たな視点を持つことができました。
  - ・食が満たされなければ命にかかわります。戦争は食・命ともに人々を脅かすことがわかりやすく展示され、意識づけられました、と感想をいただきました。

## ☆映画会「ジョバンニの島」

宮沢賢治の小説「銀河鉄道の夜」の舞台となった色丹島で島民の実話を元にしたアニメ映画。

1945年春、戦時中。10歳の兄純平と7歳の弟寛太、父、祖母が暮らしていた。兄弟の名前は亡き母が大好きだった「銀河鉄道の夜」のジョバンニとカンパネラから名付けられました。8月15日の終戦によってソ連軍が進駐し、島民の自由も奪われました。防衛隊長だった父もシベリアの収容所へ送られ、残された家族には日本本土への強制帰還命令が下ります。2人の兄弟たちは死と隣合わせの厳しい環境の中でも誇り高く生きていく様子が描かれています。

上映終了後、美しい島の風景、美しいエンドロール曲が流れ、しばらくの間観客の誰一人として席を立つことなく、余韻に浸る不思議な一体感が漂っていました。

- 参加者から
- ・ひとは国籍、人種が違ってもお互いわかり合うことが大切。
  - ・戦争がない世の中がどれほど幸せな事が、思い知らされます。戦争はいけませんね。
  - ・いろんなことがあっても人は強く生きる！ 大切な命！ 大切な平和！ という感想が寄せられました。



@JAME



▲DVD放映・私の学校はまだかな？

## ☆市立小学校「平和学習の取り組み」映像放映

孫の顔を探しながら見ていると、各小学校の平和学習の取り組み姿がよくわかりました。

修学旅行前には、平和記念公園に捧げる折り鶴に全校で取り組み、平和記念公園では平和のセレモニーを行い、そして振り返り学習として全校の前で平和の学びを発表。なんとすばらしい取り組み！

将来、平和の尊さを忘れない人に育ってほしいと願いました。

## 音楽祭「愛・いのち・平和」

小学生から高齢者まで、各グループともそれぞれ持ち味や個性を生かしたすばらしい音楽祭となりました。

響く歌声に優しさ・楽しさ・力強さが感じられ、コーラスのすばらしさを実感。

参加者のみなさんは、平和な日本で唄い続けられたことへの感謝の気持ちや、世界中がいつまでも平和であるようにとの強い思いを込めて唄い上げ、会場も「うた」の持つ不思議な魅力に引き込まれました。



▲高槻市で平和の大切さを伝え続ける退職教職員グループ

## 戦争と紙芝居 ～平和ってなんだろう?～

子どもたちに大人気の紙芝居とクイズに目はキラキラ! つるちゃんが自作した戦時中の動物園でおきた悲しいお話に、動物や飼育員さんたちの気持ちを考えながら見入っていました。この子どもたちの生きていくこれからの世界に、平和が繋がっていくことを願いました。



▲街頭紙芝居師つるちゃん「紙芝居で平和を伝えたい」

## ロビーコンサート ～平和の願いをこめて～

### NENI'S(ねーにーず)による沖縄の唄と三線演奏

三線の元気な中にも哀調を含んだ沖縄独特の調べと、歌詞のひとつひとつに愛と平和が込められています。最後は、参加者全員が唄って踊って心はひとつ。幸せな気持ちが広がりました。



▲沖縄の唄と三線は愛と平和と生活そのもの

## 手作りおもちゃコーナー

子どもたちに人気の手作りおもちゃ。ストローや紙コップなど身近にある材料でハイ! 出来上がり〜! (みんな満足そう)



▲協力：  
シルバーアドバイザー  
高槻のみなさん

## 原爆被害を訴える ～広島が消えた日～

思わず目を背けたくなる数々のパネル。二度と繰り返してはならないことを、高槻から発信していかなくては! 来場者で4歳の時に被爆された方は「ボタンひとつで地球が破壊するかもしれない恐怖を、体力が続く限り語り続け、若い人につないでいきたい。平和な戦後が続くことを祈ります」とおっしゃったのが印象的でした。



▲協力：高槻市原爆被害者の会のみなさん

### 高槻市非核平和都市宣言(全文)

世界の恒

久平和は、

人類共通の

願いである。

この当然の

願いに反し

て、核兵器の保有、増強が続けられ、人類の生存に深刻な脅威を与えている。

わが国は、世界唯一の核被爆国として、その被害の恐ろしさ、被爆者の苦しみ

を世界に向けて訴え、核兵器の完全廃絶に積極的な役割を果たさなければ

ならない。高槻市は、平和を愛する文化都市として、世界のすべての国が

「持たず 作らず 持ち込ませず」の非核三原則を厳守し、地球上から核兵器が

廃絶することを願い、ここに「非核平和都市」となることを宣言する。

昭和58年3月22日

高槻市



非核平和都市宣言碑：城跡公園



▲市民による  
非核平和都市宣言朗読

# 心の豊かさを求めて

令和元（2019）年6月1日午後2時から市生涯学習センター多目的ホールで落語家 桂福丸さんをお迎えして「心と心をつなぐ防災～人と人をつなぐコミュニケーションが産む絆～」と題し、講演会を開催しました。講演と落語を一席演じられ、会場は訪れた220名の素敵な笑顔でいっぱいになりました。



会場に訪れた方も笑顔で参加

昨年は高槻でも大阪北部地震、西日本集中豪雨、台風21号と誰もが起こるとは思わなかった大きな自然災害に遭遇し、便利に頼りすぎた日常生活はたちまち混乱を招きました。今回の講演会は、福丸さんご自身の被災体験から、普段の防災意識に役立つお話を頂きました。

講演は、東日本大震災の津波のお話から始まりました。海岸からすぐ近くにある岩手県釜石小・中学校の生徒の生存率が99.8%。人はこれを釜石の奇跡と呼ぶが、普段から学校でこどもの判断で逃げる訓練をし、実際当時も生徒自身が「津波が来る」と叫びながら山手に逃げ、過去の災害を知るお年寄りのアドバイスを聞き、さらに高台に避難しました。①災害は必ず想定を超える。②自分の命は自分で守る。③ハザードマップ（被害予測地図）に頼らず逃げる。早い判断で地域、学校が連携し、実践と普段の意識がつながり、多くの命が守られました。

桂福丸さんご自身が1995年、17歳の時阪神淡路大震

災にあわれ、東灘区の家が半壊し、つらい避難生活を経験されました。救助物資が届くまで3日かかり、空腹や凍てつく寒さ、続く余震で周りがだんだん殺気だってくる中、声をかけてくれるおばちゃんがいったり、リーダーが出てきました。普段からおばちゃんは近所同士の声掛けでつながりがあり、笑いや明るく振舞ったりできる。このテント生活でも普段のつながりが生かされ、極限状態から自然と笑顔になり、つらい時ほど笑顔、ユーモアはいざという時の強さになりました。また笑いは①血糖値を下げる（糖尿病予防）②コレステロールを下げる（血液さらさら）③コルチゾールを下げる（ストレスに強くなる＝がんになりにくい）。20秒笑うと30分のウォーキング効果、30分間笑い続けると4、5時間ウォーキングの効果、1日3回笑うと脳を活性化する効果があるそうです。

講演の終わりにみんなで頭を柔らかくし、認知症を防ぐ指体操や負けるが勝ちジャンケンなど、頭の体操クイズで思い込みやすい脳の基準に少し幅を持たせ、臨機応変にとらえる練習をしました。言葉のトリックや勘違い作戦でなかなか答えを引き出せず、思い込みや自分よがりのかたい頭に気づかされました。

最後はお楽しみの落語「時うどん」に、笑いの中で防災の大切さを学ぶことができました。

## 高槻市人権まちづくり協会では 人権講演会・人権研修の講師紹介や人権啓発のサポートを行っています。 （下記は実施テーマ例）

### ●企業におすすめテーマ

- きこえないからみえる世界がある
- アンガーマネジメントを身につけよう！（コミュニケーション力）
- 人権問題入門
- 部落差別解消推進法と差別事象発生時の対応
- 「障害者差別解消法」って何？

### ●学校関係におすすめテーマ

- こどもの育ちに大切なことってなんだろう？
- 就学前に親・保護者がしておくこと・できること  
～こどものチカラ・カノウセいを育むために～

- 一人ひとりを大切にする学校・学級づくり（人権意識の向上）

- こどもの貧困と現状  
～こどもを育む社会となるために私たちができること～
- いつか花咲く時が来る～信じて待つことの意味～

### ●地域でのおすすめテーマ

- コミュニケーション力で友達増やして人生を豊かに
- 大阪のおばちゃんに学ぶジェンダー平等地域の輪
- むすびあい 心がかよう 地域の輪  
～いつもこころに逢・ラブ・遊～
- 植物の生き方・人の生き方
- 生と死を学ぶ～人生の上手な終わり方～

# 「インターネット ～多様化する人権課題～」

消せない! 考えよう その書き込み

インターネットには、掲示板やSNS(ソーシャル・ネットワークング・サービス)などコミュニケーションの輪を広げる便利な機能があります。ネット社会が広がる一方で利用に際して、誹謗中傷や個人情報などが不特定多数の人々の目にさらされる危険や、不用意な書き込みで他人の人権を侵害してしまうことがあります。また利用者の低年齢化も進み、子どもが加害者や被害者になり、トラブルに巻き込まれる事も少なくありません。そもそも、インターネットやSNSって何? 被害にあったら? 心ない、安易な書き込みでほかの人を傷つけないためのルールは? など、インターネットについて一緒に学びませんか?



手話通訳あり

要約筆記あり

## 人権を考える市民のつどい 人権講演会 スマイリーキクチさんをお迎えして

**日時** 令和元(2019)年12月14日(土)  
午後2時～(開場:午後1時30分)

**テーマ** 「インターネットと人とのかかわりあい」  
～突然、僕は殺人犯にされた～

**入場料** 無料

**定員** 先着300名(保育あり)

### スマイリーキクチさん

芸人。インターネットで、いわれなき事件で誹謗・中傷を受けた被害者。著書に「突然、僕は犯人にされた」～ネット中傷を受けた10年間～がある。



## 令和元(2019)年度 人権週間記念啓発作品を募集中!

21世紀を「人権の世紀」とする取り組みが進められるなかで、市民一人ひとりが人権問題を「自分の問題」として捉え、お互いの人権を尊重し合う高槻市を築いていくことを目的に、令和元(2019)年度人権週間記念啓発作品を募集します。奮ってご応募ください。



平成30年度絵画の部 最優秀賞作品

**1 募集対象(各部門)** ※作品応募は、原則、各部門で一人1点とします。

①標語 未発表・創作・長さ自由

②絵画 ポスターを含む A⇒手書き:未発表・創作・用紙サイズは画用紙四つ切  
B⇒パソコン:未発表・創作・用紙サイズはA2サイズ以下

③作文 未発表・400字詰め原稿用紙で4枚以内(読書感想文を含む)

**2 応募資格** 市内に居住又は通勤・通学・通園する人

**3 募集作品** 主なテーマ

- ・人権の尊さ
  - ・お互いの人権を守ること
  - ・平和・勇気
  - ・いじめをなくそう
  - ・差別のないまち
  - ・国際理解
  - ・多文化共生
  - ・助け合い
  - ・高齢化社会
  - ・ノーマライゼーション
  - ・バリアフリー
  - ・LGBTQ(性的マイノリティ)への理解
- ※その他人権・平和についてのテーマであれば可

**4 募集期間** 令和元(2019)年7月8日(月)～令和元(2019)年10月11日(金) 必着

**5 応募方法** 応募作品の裏面に部門名・氏名・住所・電話番号・作品名を記入のうえ、応募先へ郵送又は、直接持参してください。

**6 応募先** 〒569-0067 高槻市桃園町4-15 高槻市水道部庁舎北側2階  
TEL. 072-647-7825 FAX. 072-647-7233  
一般社団法人高槻市人権まちづくり協会事務局

# 人権連続講座を開催します

こども、性、障がい者、高齢者、外国人、同和問題などをテーマに、講座を開催します。

1回だけの参加もOKです。  
ぜひお越しください。

**会場：**クロスパル高槻7階第6会議室

**時間：**午後2時から午後4時まで

**定員：**当日先着 各100名

手話通訳

要約筆記

あり

とき	講師	テーマ	講演内容
9/27 金	 NPO法人 寝屋川あいの会 理事長 みわ きよあき <b>三和 清明さん</b>	<b>第二の人生を地域活性化に</b> ～シルバーパワーで助け合い～	これまでの経験を活かし、地域コミュニティ活性化のヒントをお話いただけます。
10/4 金	 大阪府子ども家庭 サポーター つじ ゆきこ <b>辻 由起子さん</b>	<b>おとなが笑えば、こどもも笑う</b> ～こども・家庭を取り巻く 現代的課題と、私たちで出来ること～	こども達の笑顔と幸せを作るために、家庭・地域・社会、そして私たちに何が出来るかを考えてみませんか。
10/11 金	 大阪府地域生活定着 支援センター 相談員 まえさか ちかこ <b>前阪 千賀子さん</b>	<b>ルポ刑務所出所者</b> ～罪を犯した高齢者の支援から 見えてくるもの～	自立を支援した事例から、社会の一員として立ち直ろうとするのに必要な地域の理解と協力についてお話されます。
10/18 金	 大阪大学歯学部附属病院 講師 むらかみ じゅんぺい <b>村上 旬平さん</b>	<b>障がいのある子どもと親への支援</b> ～歯科医療の現場から～	治療の機会が少ない障がい者（児）歯科医療現場での当事者と保護者への心理面のアプローチの大切さを伝える講座です。
10/25 金	 関西大学社会学部 社会学専攻 教授 うちだ りゅうし <b>内田 龍史さん</b>	<b>若者が考える同和問題</b> ～インタビューの向こう側～	「現代」の同和問題について、次世代を生きていく若者が多角的に差別をとらえ、しなやかに成長する様をインタビューしたデータをもとにお話します。



高槻市人権まちづくり協会は個人賛助会員（年会費無料）、団体賛助会員（年会費5,000円）、法人賛助会員（年会費10,000円）を募集しています。人権情報誌の配布、講演会の案内、講演会の企画・調整のご相談等を受けております。

●詳しくは高槻市人権まちづくり協会事務局まで

高槻市桃園町4-15 市水道部庁舎 電話 647-7825 FAX 647-7233

## 編集後記

「何が楽しくて生きてはんの？」よく聞かれるが、今回は卓球部の新人さんから。甘いもの・コーヒー・お酒・カラオケ・ブランド品他、彼らの好物の話題に食いつかないので（というより無知）疑問を持ったらしいが、私にだって好きなことはたくさんある。

公民館で習っている、卓球とヨガ。40年前のPTA仲間での月1のオイシイ（4人の頭文字）会。趣味のクイズ本は図書館が百均。ファッションは関心あるけど、店では0（ゼロ）が一つ多いので「見てるだけ～」。歩くのも好きで、バスの

待ち時間に2、3駅ウォーキング。エレベーター類はなるべく遠慮。テレビは「お笑い」教の信者？だが、家にビデオがなくて、行きあたりばったり。

ところで、6月の「人権講座・心の豊かさを求めて」の桂福丸さん。頭脳明晰でトークも抜群。大いに楽しんだが、これはタダ。年金は少しでも、文字通り「心豊か」に暮らせる。あらら、私の好きなこととお金のかからないことばかり。よって老後の資金2,000万円は、とっくにたまっている……てことはない。

編集発行／一般社団法人 高槻市人権まちづくり協会（☎647-7825）

「あくていぶ」は協会ホームページからもご覧になれます。 <https://www.takatsuki-jinmati.org/> 高槻市人権まちづくり協会 



<https://www.facebook.com/takatsuki.jinmati/>